

特 別 調 査 「2018年(平成30年)の経営見通し」

問 1. 貴社では、2018 年の日本の景気をどのように見通していますか。次の中から 1 つ選んでお答えください。

(単位：件・%)

	1.非常に良い	2 良 い	3.やや良い	4 普 通	5.やや悪い	6.悪 い	7.非常に悪い
合計(構成比)	0.6	2.3	4.6	42.2	32.4	15.6	2.3
合計件数	1	4	8	73	56	27	4
製 造	0	2	2	17	8	7	1
卸 売	0	0	0	7	0	0	0
小 売	1	1	2	15	24	11	2
サービス	0	0	0	11	14	4	1
建 設	0	1	4	23	10	5	0

* 平成 30 年の我が国の景気見通しについては、「良い」(「非常に良い」・「良い」・「やや良い」の合計)と回答する割合が 7.5%、「悪い」(「非常に悪い」・「悪い」・「やや悪い」の合計)が 50.3%となった。この結果、「良い」－「悪い」は△42.8%と、1 年前の調査(△35.3%)と比べ、7.5 ポイントの下降となった。

問 2. 貴社では、2018 年の自社の業況(景気)をどのように見通していますか。次の中から 1 つ選んでお答えください。

(単位：件・%)

	1.非常に良い	2 良 い	3.やや良い	4 普 通	5.やや悪い	6.悪 い	7.非常に悪い
合計(構成比)	0.0	1.2	7.5	41.6	34.7	13.3	1.7
合計件数	0	2	13	72	60	23	3
製 造	0	0	6	12	12	7	0
卸 売	0	0	0	5	1	0	1
小 売	0	1	4	20	22	7	2
サービス	0	0	0	11	14	5	0
建 設	0	1	3	24	11	4	0

* 平成 30 年の自社の業況見通しについては、「良い」(「非常に良い」・「良い」・「やや良い」の合計)と回答する割合が 8.7%、「悪い」(「非常に悪い」・「悪い」・「やや悪い」の合計)が 49.7%となった。この結果、「良い－悪い」は△41.0%と、1 年前の調査(△31.8)と比べ、9.2 ポイント下降した。

問3. 2018年において貴社の売上額の伸び率は、2017年に比べておおよそどのくらいになると見通していますか。次の中から1つ選んでお答えください。

(単位：件・%)

	1. 30%以上の増加	2. 20~29%の増加	3. 10~19%の増加	4. 10%未満の増加	5. 変わらない	6. 10%未満の減少	7. 10~19%の減少	8. 20~29%の減少	9. 30%以上の減少
合計(構成比)	0.0	0.6	4.1	17.3	39.3	28.9	8.1	1.7	0.0
合計件数	0	1	7	30	68	50	14	3	0
製造	0	0	2	12	9	9	5	0	0
卸売	0	0	0	0	5	1	1	0	0
小売	0	1	2	7	22	24	0	0	0
サービス	0	0	0	3	16	8	2	1	0
建設	0	0	3	8	16	8	6	2	0

* 平成30年の自社の売上額見通し(伸び率)は、「増加」が22.0%、「減少」が38.7%となった。この結果、「増加ー減少」は△16.7%と、1年前の調査(△19.1%)と比べ、2.4ポイントの上昇となった。

問4. 貴社では、自社の業況が上向く転換点をいつ頃になると見通していますか。次の中から1つ選んでお答えください。

(単位：件・%)

	1. すでに上向いている	2. 6ヵ月以内	3. 1年後	4. 2年後	5. 3年後	6. 3年超	7. 業況改善の見通しは立たない
合計(構成比)	5.2	4.6	20.8	5.2	8.7	12.7	42.8
合計件数	9	8	36	9	15	22	74
製造	2	2	11	2	4	4	12
卸売	0	0	2	0	0	0	5
小売	4	4	9	2	4	5	28
サービス	2	0	5	1	5	3	14
建設	1	2	9	4	2	10	15

* 自社の業況が上向く転換点については、「すでに上向いている」とする回答の割合が5.2%で、前年(4.6%)比0.6ポイント上昇した。また、「6ヵ月以内」や「1年後」とする比較的前向きな回答の割合は、25.4%で、前年(19.6%)比5.8ポイント上昇した。一方、「業況改善の見通しは立たない」とする回答の割合は42.8%で、前年(53.8%)比11.0ポイント下降したものの、厳しい業況が続いていることが窺える結果となった。

問5. 世間一般では、「景気回復を実感できない」という意見が広くみられるようですが、貴社では、どのような状況になれば、世の中が景気回復をより実感できるようになると思いますか。次の中から最大3つまで選んでお答えください。

(単位：件・%)

	1. 企業収益の改善	2. 賃金の上昇	3. 雇用機会の増加	4. 株価・地価の上昇	5. 物価の安定	6. 社会保障の充実	7. 後向きな話題・報道の減少	8. 海外に関するリスクの低減	9. その他	10. どのような状況になっても景気回復を実感できない
合計(構成比)	54.3	30.6	22.0	13.3	38.2	16.8	10.4	2.9	1.2	14.5
合計件数	94	53	38	23	66	29	18	5	2	25
製 造	25	6	8	4	15	4	4	0	0	5
卸 売	4	2	0	1	2	1	2	0	0	2
小 売	22	19	13	6	21	14	6	2	2	12
サービス	15	7	6	6	16	4	3	1	0	3
建 設	28	19	11	6	12	6	3	2	0	3

* 世の中が景気回復をより実感できるようになる状況については、「企業収益の改善」が54.3%と最も高くなり、「物価の安定」が38.2%で続いた。以下、「賃金の上昇(30.6%)」、「雇用機会の増加(22.0%)」、「社会保障の充実(16.8%)」、「株価・地価の上昇(13.3%)」、「後向きな話題・報道の減少(10.4%)」が続いた。一方、「どのような状況になっても景気回復を実感できない」は14.5%となり、全国調査3.5%を上回る結果となった。

～調査員のコメントから～

- 秋サケの不漁から取扱量減少したが魚価の高騰から売上は前年並みとなった (製造業)
- 原材料高で利幅は縮小、大口取引先との取引縮小もあり大幅な減収減益 (製造業)
- 秋サケ、イカ等が例年以上に不漁となり、価格高騰で仕入れが困難になった (製造業)
- 東京オリンピックの影響か本州からの木材受注が増加傾向にある (製造業)
- 災害普及工事で工事は確保されているが、採算管理が課題となっている (建設業)
- 地域の衰退が懸念される、今後の景況に合わせ事業縮小を考えている (建設業)
- 運送部門の営業エリア拡大を目指し、営業を強化している (建設業)
- 大型量販店からの値下げ交渉が厳しく、個人店へ取引をシフトする問屋が増えてきている (小売業)
- 秋サケ等の不漁の影響大きく、仕入、販売価格の上昇で売上は減少 (小売業)
- リース契約での車両販売が増加しており今後取扱を増加させていく (サービス業)
- 地元観光資源をアピールし、インターネット等の媒体の利用で宣伝強化している (サービス業)
- 地域柄漁業者の来店多いが、記録的な不漁の影響で来店客は大幅に減少 (サービス業)